

「平成 26 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」
に対する宇宙科学・探査部会の意見（案）

平成 25 年 5 月 15 日
宇宙政策委員会
宇宙科学・探査部会

1. これまでの主な取り組み

- (1) 宇宙基本計画（平成 25 年 1 月 25 日宇宙開発戦略本部決定）において、「学術としての宇宙科学・宇宙探査は、これまで我が国が世界的に優れた成果を創出し人類の知的資産の創出に寄与していること、I S A S を中心として大学を始めとする各研究機関と連携した効率的な科学研究マネジメントの体制を有していること等から、そのメカニズムを活用し、今後も一定規模の資金を確保し、世界最先端の成果を目指す。」こととされた。
- (2) 宇宙科学・探査部会においては、平成 24 年 7 月に我が国宇宙政策の司令塔として内閣府に宇宙戦略室と宇宙政策委員会が整備された経緯について理解するとともに、文部科学省、経済産業省、J A X A / I S A S からヒアリングを実施し、今後の我が国の宇宙科学及び宇宙探査の在り方に関して、意見交換を実施した。
- (3) また、「はやぶさ 2」プロジェクトの実施に際しての相乗衛星の公募につき J A X A から説明を受け、宇宙科学・探査部会として、打上げ機会の有効活用や人材育成等の観点から、相乗衛星の検討を「はやぶさ 2」に影響を及ぼさないように進めるべきとの方向で、J A X A の公募案につき了承した。今後、J A X A において、公募結果を踏まえ、具体的な対応が検討される予定。

2. 「平成 26 年度宇宙開発利用に関する戦略的予算配分方針」に対する意見

- (1) 宇宙基本計画において、学術としての宇宙科学・宇宙探査は、「今後も一定の資金を確保し、世界最先端の成果を目指す。」こととされている。
- (2) 「一定の資金」の具体的な予算額に関しては、10～20 年を見通した長期的なロードマップを作成した上で判断することが重要であること、また、ロードマップの作成に当たっては、I S A S を中心とする理学・工学双方の学術コミュニティの英知を集結し、本コミュニティによるボトムアップの活力をそぐこと無く実施できるものであることが必要であるため、I S A S において早急に検討し、宇宙科学・探査部会で審議する予定。

(3) 当面の平成26年度戦略的予算配分方針においては、現行の宇宙科学・探査事業の円滑な実施に向けて必要な予算措置を講じることとする。

具体的には、以下のプロジェクトについて、円滑な実施に向けた必要な予算措置を講じる。

○ . . .

○ . . .

○ . . .

○ . . .

. . .

(4) JAXA内の宇宙科学・宇宙探査に関する推進体制に関しても、宇宙基本計画で「JAXAの探査部門（JSPEC）とISASでテーマが重なる部分があることから、JAXA内での科学的な取組について、これをISASに一元化することを含め整理する。」こととされており、JAXAにおける早急な対応が不可欠である。

(5) また、宇宙基本計画において、「多様な政策目的で実施される宇宙探査については、有人か無人かという選択肢も含め費用対効果や国家戦略として実施する意義等について、外交・安全保障、産業競争力の強化、科学技術水準の向上等の様々な観点から、検討を行い、その結果を踏まえて必要な措置を講じる。」こととされているとともに、「将来的に国際協力を前提として実施される有人宇宙活動に対する我が国の対応については、外交・安全保障、産業基盤の維持、産業競争力の強化、科学技術等の様々な面から検討する」こととなっていることから、引き続き、宇宙科学・探査部会で検討を進める。